



市民のひろば

掲示板

◆またきいや谷相へ

香北町谷相地区では、地域交流を目的にまたきいや谷相へを開催します。当日は地元でとれたお米を食べさせていただきます、いも掘り・稲わらリースづくりの体験を予定しています。

【日時】11月7日(日)
10時集合〜15時30分

※雨天決行

【集合場所】保健福祉センター香北駐車場
※ここから先導車に続いて谷相へ移動

【参加費】大人3千円・小学生千円・未就学児無料

【ご持参いただく物】

エプロン・三角巾・マスク
長靴・軍手・タオル・帽子
【募集人員】先着20人
【申込方法】ハガキに申し込み代表者の氏名・住所・電話番号・参加者全員の氏名・年齢を書いて郵送して

ください。※10月20日必着
【問い合わせ・申込先】

谷相地区集落営農組合代表
前田泰生(つねお)
☎59・3357
※20時〜22時
〒781-4232
香北町谷相2348

◆地震模擬体験

【日時】11月10日(水)

10時〜12時・13時〜15時

【場所】ワークセンターしらゆり駐車場(土佐山田町岩積)

【内容】起震車による地震の模擬体験

【その他】

①雨天決行ですが、台風等の荒天時には中止となる場合がございます。
②お車で越越しの方は、係が駐車場所を案内します。
【問い合わせ先】
ワークセンター白ゆり
☎52・4131

まちの声

◆岡西先生を悼む

5月28日、私の体の中を驚愕が走り抜けました。先生が死んだ！岡西静雄先生(土佐山田神母ノ木・歯科医師)が亡くなった。どうして。どうして。どうして。レビニユースを見つめたまま、動くことも声を出さずともできまませんでした。後日、先生の奥様から、遺品を整理してましたらこの様な文書が出てきましたと、懐かしい先生の字で書かれた便せんを届けてくださいました。

歌には音楽性人間性抒情(じよじょう)性がなくてはならない。無心で歌う歌には聞く人の心の鳴咽(おえつ)が目頭に溢(あふ)れ出る



作:山田高校マンガ部

清き涙の一粒を それが人の心の一粒だよ 嘘(まぶた)に溢れ頬(ほお)を流れるものか 君知るや そう言う歌を貴女(あなた)は歌い給え 人の心の中を唄う無冠の歌い手さんこそ私の 最高の珠玉(しゅぎょく)である 人の心の中に沁(し)み込む歌こそ真(ま)ん)の歌である 喜びの極みも涙なり たかが演歌と言ふ勿(な)かれ されど艶歌(えんか)なり 日本人の心の原点なり

編集後記

猛暑のおかげか、例年より秋の訪れをありがたく感じる今日この頃です。異常気象に負けず、美しい紅葉が見られることを期待します。(細木)

ただいま留学中

施 霖 (中国・雲南省大理市)

私は情報システム工学博士後期課程の2年生で、去年4月に中国の西南部にある大理から来ました。篠森研究室で『視覚心理物理学』を勉強しています。私の故郷、大理を紹介します。大理は大理石の由来の町です。高知のように太陽光と雨量に恵まれています。4千メートルの峰々が連なる『蒼山』、山脈と澄んだ水を混ざる『洱ハイ湖』が大理の美しい自然を作っています。面積29,500平方キロ、人口330万人、低緯度ですが、山岳地帯なので最も寒い1月の平均気温が9℃、最も暑い7月の平均気温が22℃です。大理は中央平原につながる集落としてスタートし、その後、ミャンマー、インド、北京を結ぶ交通の要所として発展してきました。

らしい伝統文化と4千年の歴史があります。白族の伝統文化には詩、音楽、舞踊、伝統工芸、劇などがあり、中国で何世紀にもわたって高く評価され続けてきました。『生きた音楽化石』とか『純粹音楽』とか呼ばれる、洞経(ドンジン)音楽は最近また評判を呼んでいます。単調でゆったりとした曲調が自然回帰を願う現代人の審美的な感性に合っているのでしょうか。私も音楽無しの生活は考えられません。

宮地彦三郎は、慶応3年(1867)11月11日に山内公の命で英国公使に親書を持参、面談を果たし、11月15日に帰京した。河原町の近江屋方の坂本隊長を訪れたら、龍馬は2階から高声で使命を終えた労を喜び、「上がって来ぬか」と言い、中岡も同様に言ったが、彦三郎は「帰途であるから旅装を改めてからにします」と下宿に帰った。帰宿後間もなく刺客襲来し、坂本・中岡が倒れたとの急報があり、驚いて近江屋に行った。

ようにした。浦人は隊士たちを命の恩人だとして“生神様”として祭り、隊員13人の十三(とさ)神社が建てられ、現在も重三神社として祭られている。彦三郎は明治7年に帰郷してからは、教員就任を勧められ、明治26年から退職の39年3月までは、旧槇山村の各小学校に務め、教えを受けた者も多い。 ※人名とは、海の本百姓といったところで、塩飽諸島に650人が散在しており、徳川幕府のお抱え水夫として公認され、有事の際には無償で船や労力、操船技術を提供した。



▲槇山第5尋常小学校跡(押谷)彦三郎が明治26年〜34年まで勤めた小学校。現在は民家が建っており、手前の石垣も増設されたもの。

香美史記 探訪記

第17回 土佐海援隊士 宮地彦三郎 (旧槇山村)

宮地彦三郎は、高知市桜井町に生まれ、文久元年(1861)に上洛。京都土佐藩邸で勤務中に監察役に昇進した。諸国の志士と交流し、勤皇心を持つようになり、文久3年京都土佐藩邸を抜けて脱藩した。八木彦三郎などと称し、慶応3年8月龍馬が京へ来た折、海援隊に入隊した。翌年正月、戊辰戦争がおこると新海援隊を組織、瀬戸内海の香川県塩飽(しわく)諸島本島(ほんじま)の小坂浦で起きた暴動事件を解決するため彦三郎を隊長として出動した。人名(にんみょう)※側は浦の全戸を焼き、浦人18人を焼死させる。さらに漁船をすべて沈没させ480人を捕らえて監禁したところであった。新海援隊は浦人を救出して生活できる

清き涙の一粒を それが人の心の一粒だよ 嘘(まぶた)に溢れ頬(ほお)を流れるものか 君知るや そう言う歌を貴女(あなた)は歌い給え 人の心の中を唄う無冠の歌い手さんこそ私の 最高の珠玉(しゅぎょく)である 人の心の中に沁(し)み込む歌こそ真(ま)ん)の歌である 喜びの極みも涙なり たかが演歌と言ふ勿(な)かれ されど艶歌(えんか)なり 日本人の心の原点なり

